

# 2016年度 決算説明会

2017年5月19日

アイエックス・ナレッジ株式会社

JASDAQ(9753)



# 2016年度 決算の概要

# 2016年度 トピックス

## 2016年度

<p><b>4月</b> 新入社員70名入社</p> <p>PMO室の設置</p> <p>日立公共システム様より感謝状</p>	<p><b>9月</b> 自己株式 165,000株取得</p>
<p><b>5月</b> 自己株式 1,234,660株消却</p> <p>メル訓クラウドサービスでNTT東日本と協業</p> <p>インターネット出願サービスで大手決済代行会社と協業</p> <p>日立製作所様のプラチナパートナーに認定</p>	<p><b>11月</b> 自己株式 53,000株取得</p> <p>子会社大連IKIを大連CNCへ持分譲渡 (併せて、大連CNCへ10%出資)</p> <p>東証システムサービス様より表彰</p>
<p><b>8月</b> 自己株式 82,000株取得</p>	<p><b>12月</b> 資産管理サービス信託銀行様より感謝状</p> <p>みずほ信託銀行様より感謝状</p> <p>みずほフィナンシャルグループ様より感謝状</p> <p><b>3月</b> NTTデータ様より感謝状</p>

# 市場環境と当社の取組み

## ユーザー動向

サービス強化やビジネスモデルの変革  
を目的とした「攻めのIT」

業務効率やコスト削減  
を目的とした「守りのIT」

IT利活用⇒IoT、ビッグデータ  
新技術⇒AI、ロボティクス

基幹系システム、情報系システム  
の開発や再構築

IT投資の拡大

IT投資の復調

お客様のニーズに  
応えるための情報収集

注力分野において  
体制を強化

アイエックス・ナレッジ

# 2016年度 IKIの業績における影響要因

## プラス要因

メガバンク／次期シス  
で担当範囲の拡大

既存の証券・  
保険分野で受注拡大

車載、映像センサー  
への転換

## マイナス要因

大手損保会社の  
大型案件見送り

前期不採算案件  
による機会損失

ストレージ市場の  
大幅な縮小

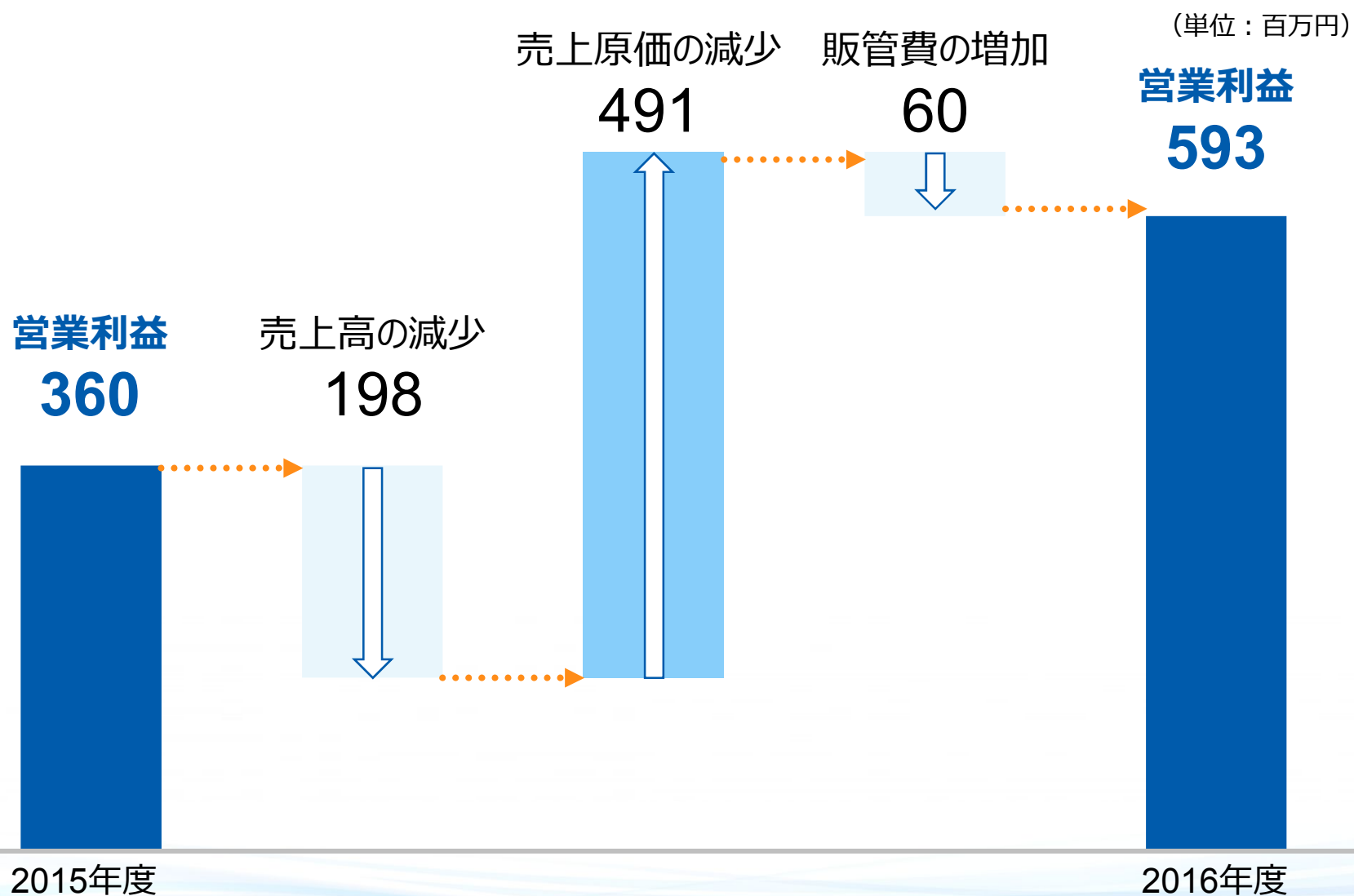


# 2016年度 経営成績

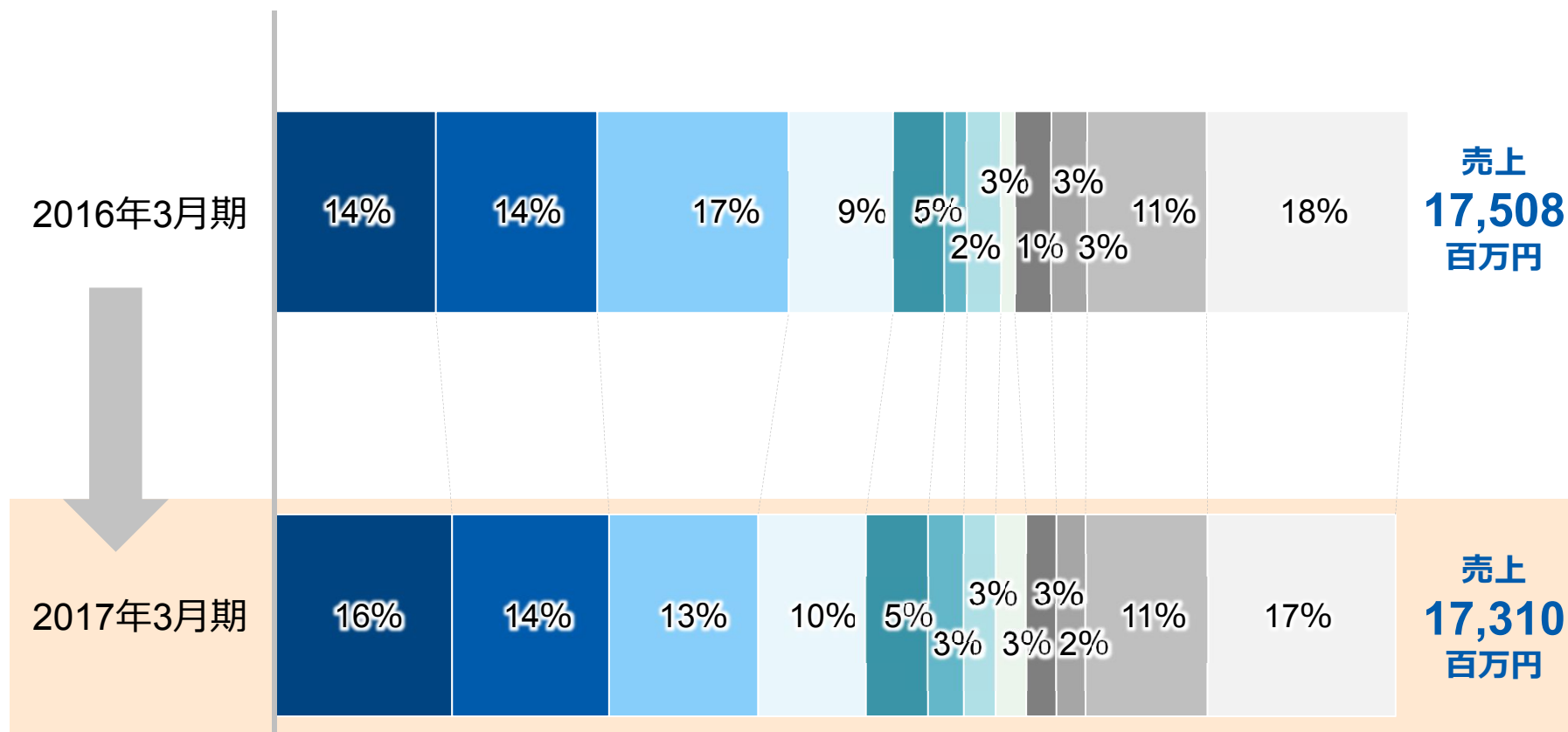
(単位：百万円)

	2016年度	2015年度	増減額	増減率
売上高	17,310	17,508	-198	△1.1%
売上原価	14,479	14,970	-491	△3.3%
売上総利益	<b>2,830</b>	<b>2,537</b>	<b>293</b>	<b>11.6%</b>
売上総利益率	16.4%	14.5%	1.9P	—
販管費	2,237	2,176	60	2.8%
営業利益	<b>593</b>	<b>360</b>	<b>232</b>	<b>64.6%</b>
経常利益	<b>633</b>	<b>402</b>	<b>231</b>	<b>57.5%</b>
当期純利益	<b>407</b>	<b>208</b>	<b>199</b>	<b>96.0%</b>
配当金	<b>10円</b>	<b>10円</b>	—	—

# 営業利益の変動要因



# 顧客別売上構成



- みずほF-G
- NTTデータG
- 日立-G
- KDDI-G
- NEC-G
- フコク-G
- IBM-G
- 富士通-G
- 三菱UF-G
- NTT-G
- ~20位
- その他

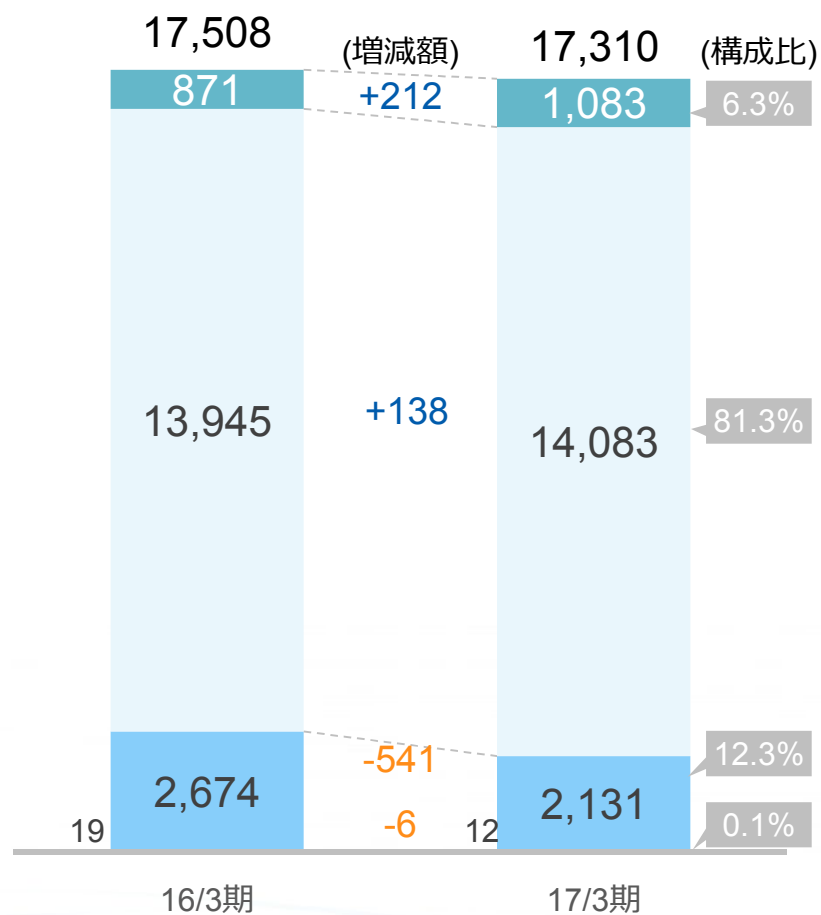
※グラフ中の数値は、売上全体に占める割合を表しています



# カテゴリ別売上構成

## 品目別

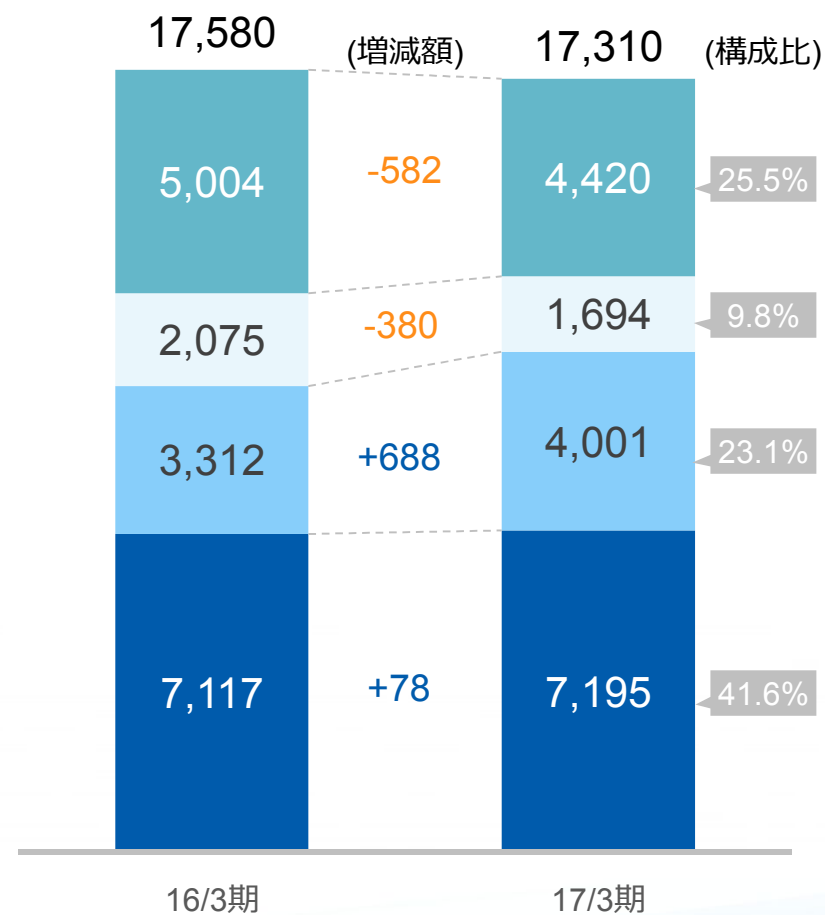
(単位：百万円)



■ コンサル ■ 開発 ■ 運用 ■ 商品他

## 業種別

(単位：百万円)



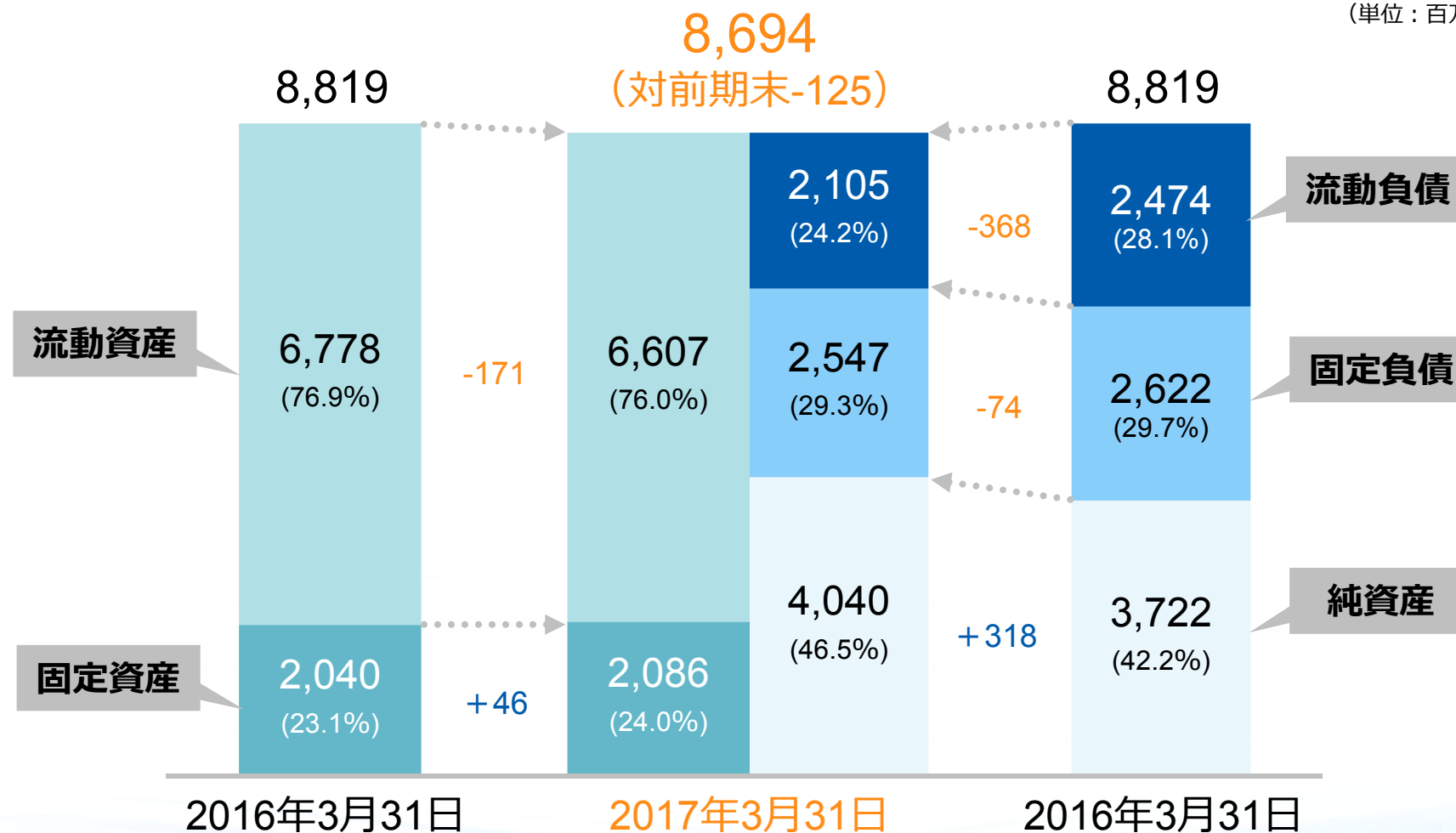
■ 産業・サービス ■ 社会・公共 ■ 情報・通信 ■ 金融・証券

# 貸借対照表

## 資産の部

## 負債・純資産の部

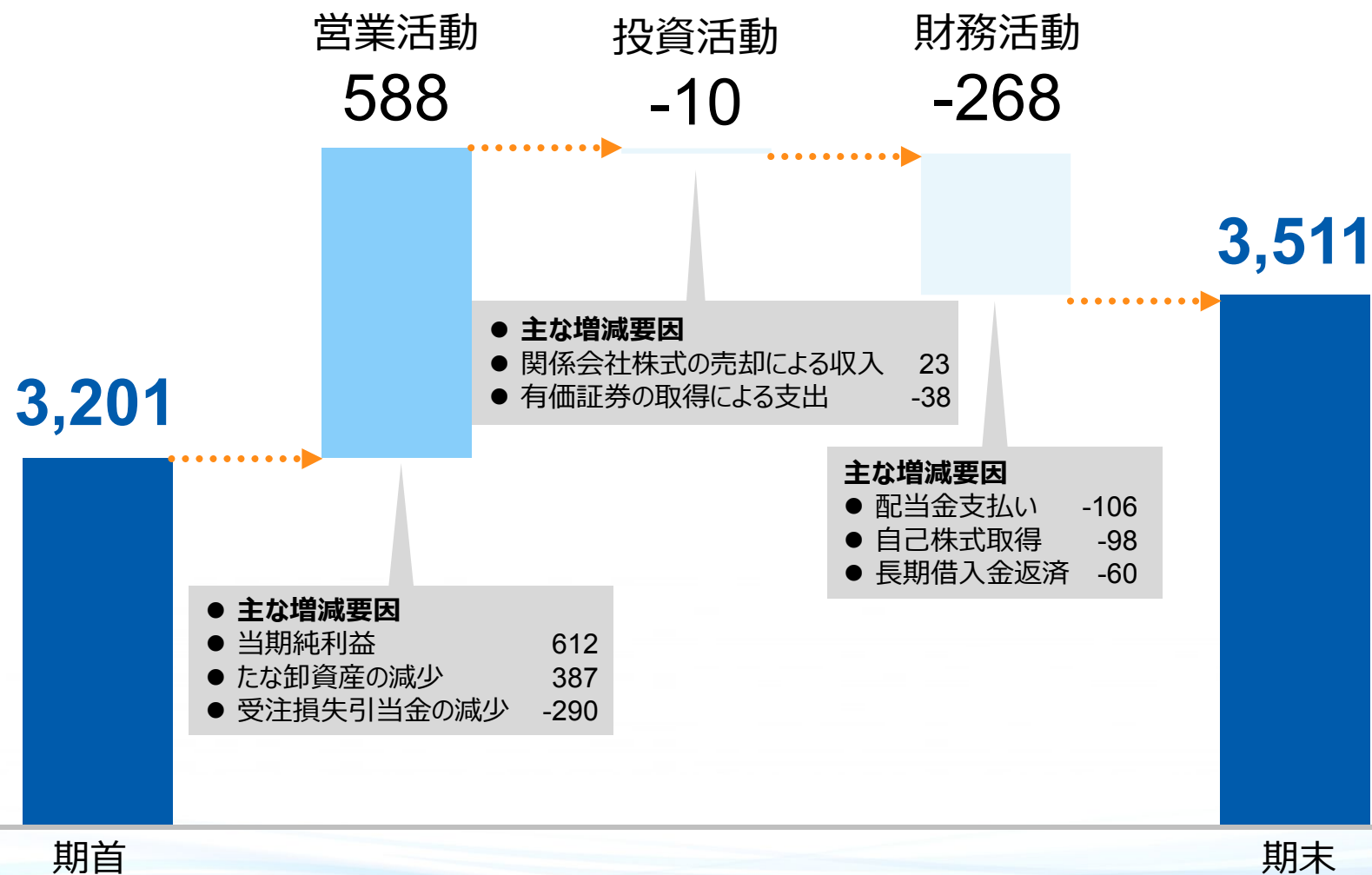
(単位：百万円)



# キャッシュ・フロー

2016年4月1日～2017年3月31日

(単位：百万円)



# 中期經營方針 (IKI VISION 2020)

# 企業理念とビジョン

## 【企業理念】

私たちは 情報サービスを通じ 人と社会の豊かさに貢献する。

## ビジョン

しっかりとしたモノ（システム）づくりと高品質のサービスを提供する。

私たちの原点であるモノづくりを大切にし、最新の I C T の活用により高付加価値サービスを提供していきます。

すべてのステークホルダーから選ばれる企業になる。

いきいきと働く社員が、高品質のサービスを提供する事により、お客様に最も信頼される企業となり、多くの投資家の皆様に選んで頂ける企業を目指します。

# IKI VISION 2020

## ① 中核事業の拡大

強みの明確化を図り経営資源を集中し、収益基盤としての中核事業を拡大する。

## ② 次期成長事業の創出

付加価値の高いサービス/ビジネスモデルを創出し、次期コアコンピタンスを創出する。

## ③ 事業基盤の強化

働き方改革の推進や高収益体質への変革を実現し、事業基盤の強化を図る。



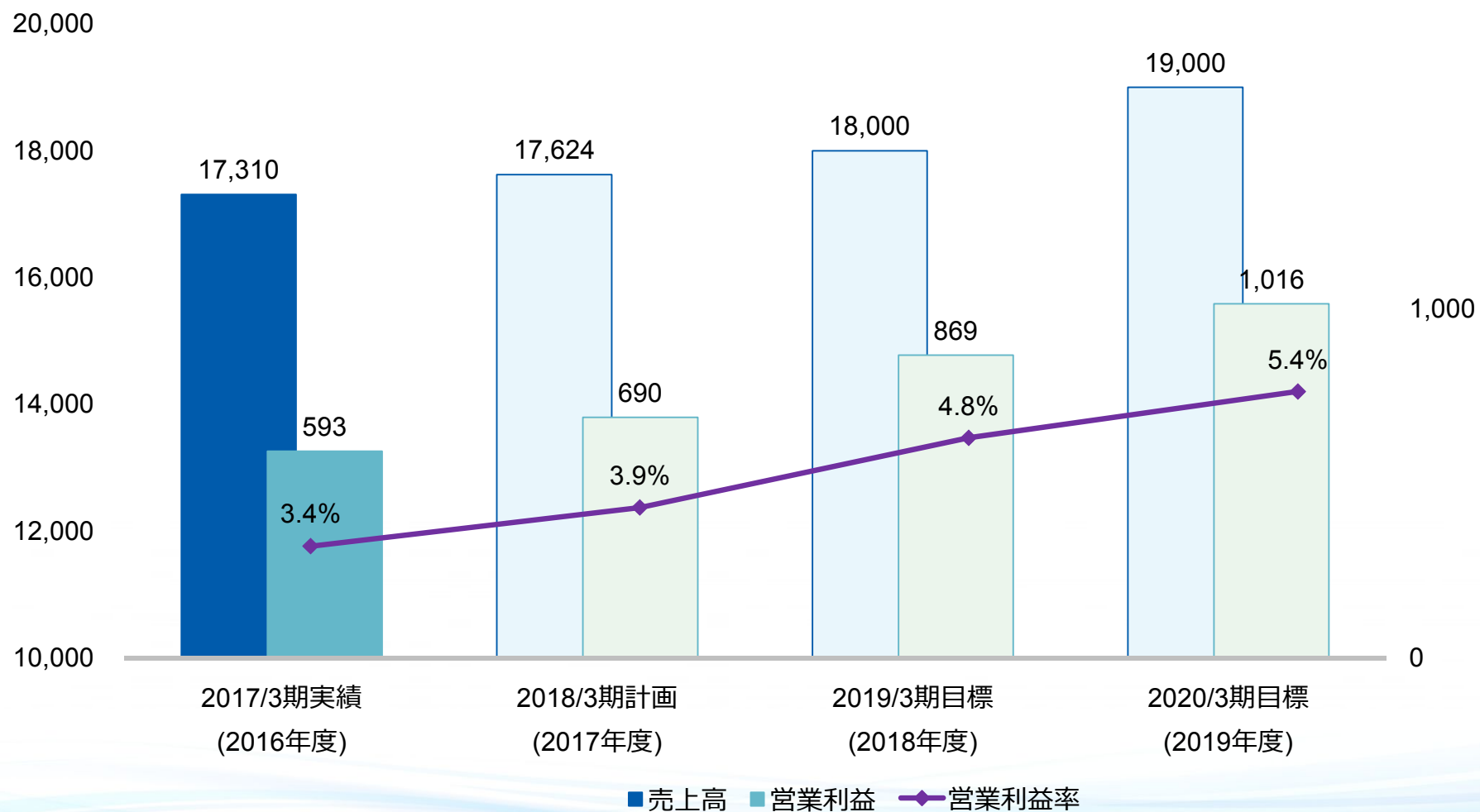
お客様から高い信頼  
を得る

高付加価値サービス  
を提供し

いきいきとした社員  
が

# 中期財務目標

(単位：百万円)  
2,000



# 2017年度の取組み



# 取組みのポイント①

## 中核事業の拡大

- 今後拡大が期待される注力事業への経営資源の集中
- 案件確保に向けたプロジェクトマネージャーの増強



## 業種別市場環境と I K I の取組み

業種	市況	ポイント
産業・サービス	→	車載関連には前年度から取組み、今年度は拡大を狙う。物流系のシステム再構築案件獲得に向けて活動中。
社会・公共	→	社会インフラ（鉄道、エネルギー等）の受入検証、システム開発の新規受注に向けて、活動中。
情報・通信	↗	通信会社による受入検証の大型案件を受注済。通信会社のシステム統合案件の受注に向けて活動中。
金融・証券	→	マイナス金利の影響とメガバンクの次期シス収束により減少傾向。市場系、生損保の新規開発を狙っていく。

## 取組みのポイント②

次期成長事業の創出

「『動く』innovate」で  
お客様の新ビジネス対応への動向をキャッチアップ

お客様との共創



IT活用によるお客様のサービス・収益向上に貢献

## 取組みのポイント③

### 事業基盤の強化

- 利益率アップの取組み  
生産性の向上、間接コストの削減、受注単価交渉
- 人材の確保と育成  
採用方法の多様化、プロジェクトマネージャー及びスペシャリストの育成、  
パートナー会社との共創
- 働き方改革  
時間外労働の抑制、有給休暇取得の推進、女性活躍の推進

# 2017年度 業績予想

(単位：百万円)

	2016年度 実績	2017年度 予想	差額	比率
売上高	17,310	17,624	314	101.8%
売上原価	14,479	14,708	229	101.6%
売上総利益	<b>2,830</b>	<b>2,915</b>	<b>84</b>	<b>103.0%</b>
売上総利益率	16.4%	16.5%	0.1P	—
販管費	2,237	2,225	-11	99.5%
営業利益	<b>593</b>	<b>690</b>	<b>96</b>	<b>116.3%</b>
経常利益	<b>633</b>	<b>724</b>	<b>91</b>	<b>114.5%</b>
当期純利益	<b>407</b>	<b>479</b>	<b>72</b>	<b>117.7%</b>
配当金	<b>10</b>	<b>10</b>	—	—



**IX Knowledge Inc.**